

## 囲碁用語を英語でなんというか

今、囲碁用語を英語でなんと表現するかを調べています。この作業は子どもや孫たちに碁の面白さや難しさを伝えるためです。決して彼らに碁を教えるという動機ではありません。囲碁用語集を【A~Z】に分類し、ようやく一応ながらまとめてみました。。

ヨーロッパやアメリカはチェス(chess)が大変盛んです。その影響からでしょうか、チェスからきた用語を囲碁でも使います。例えば、チェック (check) があります。自分の駒を利かせて取ろうとする手のことです。囲碁の「アタリ」にあたります。「ケイマ」にあたるのが「knight move」といいます。

「打って返し」という技があります。これは「snap back」といいます。駄目が詰まってしまい、逆に即とられることをいいます。こんなポカをしてはいけません。ちなみにポカの英語は「blunter」といいます。もともと「鈍い」という単語がからきています。「careless mistake」でもよいでしょう。

「定石」のフレーズは「a set of sequence」。両者が最善を尽くして打ってできる形、という用語が sequence です。取れた石、「アゲハマ」の単語は「prisoner」、文字通り捕虜です。終局になると、「アゲハマ」を相手の陣地に埋めて小さくすることができます。「アゲハマ」を沢山持つと有利です。



囲碁には「味」とか「味悪」という用語があり

ます。相手を攻める余地がある、あるいは攻められそうな余地があることです。

「味」は英語で「potential」、「味悪」は「bad potential」といいます。なにか危険な兆候があるという意味です。将来利きがある、可能性があるので楽しみだ、というわけです。「アヤ」も「味」に近く「practical chances」といいま

す。

「ナダレ」という戦術があります。これは、盤上の中央を重視し相手の石を隅に封じ込める定石です。これを英語では「small avalanche」小ナダレ、とか「large avalanche」大ナダレと呼びます。ところで「avalanche」とは文字通り雪崩のことです。中央を重視する戦術は宇宙流といわれますが、中央をまとめるのはとても難しいことのようにです。ついでに「厚い」は「thick」とか「advantageous」といいます。反対の「薄い」は「thin」とか「薄い」といいます。ただ、厚いや薄いの英語は、なんとなくしっくりしません。このように碁にはそのまま英語に置き換えるのは難しい用語がいろいろあります。

これから更に文例を増やし、外国人にも碁の面白さ、奥深さを知っていただくように改訂していきます。

(2023年8月7日 大和田囲碁同好会 成田 滋)